

1 学期終業式 「時間のはなし」

校長 栃倉 和則

勉強に、部活に、その他すべてに、頑張っていますか？今しかできないことに打ち込んでいますか。これが今年の課題です。

しばらく前のことになりますが、6月の合唱コンクールは私たち、私たち聞く者の胸に熱いものを残してくれました。その感動が人を動かすのです。こうして豊多摩はますますいい学校になっていくのです！

合唱コンクールの時、校門で声を掛けました。「大丈夫か」「疲れていないか」と。「校長先生、やること多すぎ！時間が足りません！」と返ってきました。「そうだろう。それが豊多摩の青春だ！」などと言っておきました。

さて今日は、時間のお話しをします。と言っても、今日は、遅刻をしてはいけないとか、そんな当たり前の話ではありません。

まずこんなことを聞いてみたいと思います。あなたは、10時に約束をしています。何時にその場所に到着しようと考えますか？条件や背景によって、異なりそうですね。でも大切な場所、大切な人との約束には遅れないようにするというのは人の常でしょう。学校はというと、いつもそこにあるという安心感があるのでしょうか。約束という感覚がないのか。毎日のことですから、むしろ習慣づけが大切です。

量的時間、質的時間という捉え方があります。時間は、時計で計ることができる客観的なもの？でも、同じ時間なのに・・・

楽しい時間はいつの間にか過ぎてしまう

辛い時間は長く感じる

最近、歳のせいか時間が経つのが早くてね・・・などと聞いたことはありませんか。これが、質的時間。個の捉え方に差がある、主観的なものです。

流れた時間（過去）と、流れる時間を区別し、流れる時間は自ら流す必要がある。そこで、どれだけ濃い時間をすごすことができるのか、そこに自由があるとしたのは、フランスの哲学者ベルクソンです。そしてそれを決定づける三つの要素が、リズム、メロディ、ハーモニーであると言っています。この辺は、先生方も授業の組み立ての要素としてご参考になるのではないのでしょうか。

(1)リズム（点）

リズムは点で意識を喚起させる、タテの関係性。コンテンツと定義されます。

1) 分かりやすいコンテンツ 2) 関心の持てるコンテンツ 3) 楽しませるコンテンツ

(2)メロディ（線）

メロディは線で捉えられ、横軸の関係性。言い換えればストーリー。展開や流れ。

1) 期待に沿ったストーリー2) 変化するストーリー3) 期待を裏切るストーリー

(3)ハーモニー（場）

そして、ハーモニー。時間が展開される空間。全体の空間やイメージ。

1) 自由度の高い場づくり 2) 一体感を感じる場づくり 3) 公平で秩序が保たれた場

次に、モノクロニックとポリクロニックという時間の捉え方があります。

時間の捉え方として特徴的なところを表にまとめてみました。

モノクロニックは、単線で順序立てて物事に取り組みます。一つ一つの成果が見えやすいというメリットがあり、計画時間が崩れやすいというデメリットがあります。

これに対してポリクロニックは、計画や順序はあくまでも目安で、複数のことに並行して取り組みます。限られた時間にいろいろと取り組むという点では、ポリクロニック型の優れている点もおわかりいただけると思います。

これまでは、それぞれが文化によって生じたものではないかとされてきました。アングロサクソンやゲルマン民族、アメリカ、日本などはモノクロニック文化、一方中南米や中東、アフリカなどはポリクロニック文化。

さきほどの時間の感覚で言えば、時間に厳しい国と、大らかな国とも言えます。10 時の会議に、スペイン人は 11 時に来る。ドイツ人は 10 分前に到着し、ベルギー人は時間きっかりにくる。アメリカ人は数分遅れで到着し、レバノン人はみんなが到着してから 1 時間後に来る。などと、言われます。

日本でも、沖縄の時間はゆったりと流れると言われます。会合の開始時間を一時間も過ぎてから、さあそろそろ行くかと重い腰を上げ、それから家を出る…だから集合時間はあつてないようなもの…などという話をよく耳にします。

しかし最近では、日本人だからこうだとか、南米だからどうだという話ではなくなっています。そんなことは今や、ステレオタイプとされます。現在は、多様化して混在しているという見方です。また、個人の中にも両方の軸を持つ人もいると考えられます。このあたりが現代の異文化コミュニケーションの難しいところです。

続いて、シングルタスクとマルチタスクという話です。モノクロニックとポリクロニックと趣旨を同じくすると考えてよいでしょう。

それぞれにメリット、デメリットがあります。個の特性で、どちらが得意、どちらが不得意ということは考えられます。シングルタスクで、ひとつずつタスクをこなしていくということは、ひとつずつ仕事して、終わったと荷を下ろしてという繰り返しなので、タスク管理がしやすく、成果も見えやすく、ストレスをためることも少ない。しかし、いったん時間がずれると、全てがずれてしまうというデメリットがあります。優先順位を間違えると、とんでもないことになりかねません。

一方、マルチタスク型の方は、並行して取り組むので、全体像が見えやすいというメリットがあります。突発的な対応も可能ですが、生産性はシングルタスクの方が見えやすいとされます。

現代社会のなかで、多くの実務で求められるのはマルチタスクです。一度に複数の作業を進める。私なども、一度におそらくは10〜20件くらいのタスクを抱えています。たくさんの顧客を抱える営業マンなどは、その何倍もあるのではないかと思います。

今日の話の結論です。バランスよく、自己管理が重要。

一例を挙げれば、電車の中で単語を覚える、休み時間に一問一答をやってみる、部活動が始まるまでアプリで復習するなど、隙間時間を活用する。これも立派なポリクロニック（マルチタスク）型の時間軸です。ただし、それだけではもちろんダメで、時間が取れる時にはしっかりと集中して、勉強することが大切です。

「二兎を追え」「少なくとも三兎を追え」と目標に掲げる高校があります。言うまでもなく「二兎を追うものは一兎をも得ず」ということわざに由来しますが、逆に言えば「二兎を追わずして二兎を得ることはない」わけで、豊多摩の「文武両道」も同じです。あえて困難な課題を課すことによって自分を鍛え、さらに高みを目指せという趣旨です。

まずは、ボーっとしている時間、ゲームに手を伸ばしている時間、何気なくスマホをいじっている時間…それだけでも、いつの間にか、かなりの時間になっていることをお忘れなく。PTA 広報誌にも似たようなことを書かせていただきました。できれば、保護者の方と共有していただきたいと思います。多くの先輩方がスマホで苦勞しました。自分でロックをかけてしまったり、お母さんに預けたり…保護者の方の協力も必要かと。

限られた時間にたくさんのことをこなすという命題に対して、誰もが有する時間は不公平なく24時間。これをどのように使うかは、本人次第。時間の使いかたによって得られる成果に差が出るわけです。すなわち、チャンスは平等ですが、結果は平等ではない。ボーっとしている時間、ゲームに手を伸ばしている時間、何気なくスマホをいじっている時間…それだけでもかなりの時間になっていることをお忘れなく。

「命短し恋せよ男女」

この夏、今しかできないことに取り組んでください。2 学期始業式にまた、元気な顔を見せてください。

Touch the Sky! TOYOTAMA!

写真部が撮ってくれた写真をポスターにしました。写真部に拍手！